

令和6年度 千葉県学力向上推進会議

ちばっ子「学力向上」総合プラン
(ダブル・アクション+ONE)

評価表

千葉県教育厅教育振興部学習指導課

Action1 目指す姿

「自ら課題を持ち、多様な人々と協働し、粘り強くやり抜く子」

【評価項目】 児童生徒の「学ぶ意欲の向上」

【評価の観点】 ア 人的配置により学ぶ意欲の向上につながっている

イ 教育環境の整備により学ぶ意欲の向上につながっているか

観点別評価

ア 人的配置により学ぶ意欲の向上につながっているか

		2-1	3-1	3-2	4-2	観点ごとの評価
		遣一事業の充実	「特別非常勤講師」の配置	配一小学校専科非常勤講師」の	の外配国語指導助手（ALT）等	
児童生徒	児童生徒は、自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか	a	a	a		a
	児童生徒は、多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしていたか		a	b	b	b
	児童生徒は、主体的または計画的に学習に取り組めたか	a				a
	魅力的な学習活動であり、児童生徒が最後までやろうとする意欲を持ったか	a	a	b	b	b
県教委	児童生徒が学ぶことが楽しいと思える教育活動を支援できたか			b		b
	児童生徒が学ぼうと意欲的になるための教育活動を支援できたか	a				a

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

イ 教育環境の整備により学ぶ意欲の向上につながっているか

		1-1	1-2	1-3	3-3	4-1	5-1	5-2	6-1	視点ごとの評価
		ちばっ子チャレンジ100（小学校）	ちばのやる気学習ガイド（中学校）	「家庭学習のすすめ」サイトの活用促進	STEAM教育の推進【新規】	「ICT（A-I英会話学習支援システム）」の活用	「SSH」の活用	「科学の甲子園」「科学の甲子園ジユ」 「アーティスティック甲子園」の開催	ICTを活用した学習指導の充実	
児童生徒	児童生徒は、自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか	b	b	b	b	b			b	b
	児童生徒は、多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしていたか				a	a	a	a	c	b
	児童生徒は、協力したり協働したりしながら学習する良さを実感できていたか						b	b	c	b
	児童生徒は、見通しを持って活動に取り組み、最後までやろうとする意欲を持っていたか	b	b	b						b
	児童生徒は、主体的または計画的に学習に取り組めたか	b	b	b		b				b
県教委	児童生徒が自発的、計画的に学習に取り組むための支援ができたか	b	b	b						b
	児童生徒が学ぼうと意欲的になるための教育活動を支援できたか			b			b	b		b
	児童生徒が将来の夢や希望が持てる教育活動であったか				b					b

※a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である

Action1 の総括評価

*各委員による評価

評価の観点	学力向上推進会議における意見
ア	各施策とも児童生徒の意欲向上に大いに資するものである。「学習サポーター」については、きめ細やかで丁寧な指導により、安心して学習できる環境が整えられている。学校現場からの満足度が高い一方、派遣開始までの時間など、活かしきれていない場面があり、学校が安定して運用できるよう、更なる活用を望む。国の予算が減少しているという懸念点があるので対策が必要と思われる。「外国語指導助手（A L T）等の配置」は、現場にとってすでになくてはならないものである。「特別非常勤講師」「小学校専科非常勤講師」の配置と併せ、今後も積極的に外部人材を取り入れ、多くの大人が関わることでより多角的に教育の幅を広げていくことが求められる。
イ	学ぶ意欲の向上という目的は概ね果たされている。「英語教育」「S S Hの活用」「S T E A M教育」の各事業については、関係校・参加校における成果は大きいと認められる。その成果を当該校のみに留めず、他校にどう広げ、充実させていくかが今後問われる。特に新規事業である「S T E A M教育の推進」は生徒が多様な価値観に触れ、普段体験できない活動を行うことで生徒達の視野を広げることに有効であり、今後も継続してほしい。「I C T活用」はかなり進んでいるはずであるが、活用の度合いや内容・方法等、学校や教員によって大きな格差があると考えられる。評価方法を工夫し実態がより反映されるものにするとともに、事例集積・整理・提供を県総合教育センターと連携して進め、積極的な活用が図られることを期待する。
【Action 1について】	
各事業の有効性はそれぞれに十分に認められる。昨年度からより工夫改善された内容も様々にあり、評価を生かした継続的・発展的な展開が行われているといえる。情報提供や広報活動をさらに進め、活用度を高める工夫・努力を引き続き進めていただきたい。	
限られた予算の中で児童生徒の学ぶ意欲を引き出すため、工夫した取組がなされている。こうした取組は安定して人的配置が確保されることが必要である。「英語教育の充実」については、A L TとA I双方の良さを生かすことで更なる取組の充実が期待できる。児童生徒が多角的に視野を広げ、目標を持って学ぶために、また県内すべての公立学校の更なる学力向上のために、将来を見据え、予算確保と事業の継続を望む。	

Action2 目指す姿

「子供と社会の変化を捉え、自律的に学ぶ姿勢をもち、授業を工夫する教員」

【評価項目】 教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

【評価の観点】 ウ 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を意識した取組につながっているか
エ 授業改善を意識した研究・研修・分析ができているか

観点別評価

ウ 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を意識した取組につながっているか

		8-1	8-2	8-3	9-1	観点ごとの評価
		ム高「一 一め」 のる思 活実考 用実践し 促「一」 進「一」 デ表 ル現 プす 口る グ力 ラ」 を	「学 力向 上交 流会 」の 開催	指 定 ち ば 検 つ 証 子 協 の 力 学 校 び 」 変 革 「 研 究	タ 「 授 業 づ く り の 認 定 」 コ ー デ イ ネ ー	
教職員	教職員は、児童生徒の学ぶ意欲を引き出すために、教材を工夫したか	b				b
	教職員は、授業改善に向けて「実践モデルプログラム」を意識することができたか	b	b		b	b
	教職員は、授業改善に向けて「実践モデルプログラム」を活用したか	b		b	b	b

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

工 授業改善を意識した研究・研修・分析ができているか

		視点1との評価											
		7-1	8-1	8-2	8-3	9-1	9-2	10-1	10-2	10-3	11-1	11-2	11-3
用一促進 △「『全国学力・学習状況調査』のデータ及び分析ツールの活用」		△「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラ	△「『学力向上交流会』の開催	△「『ちばっ子の学び変革』研究指定（検証協力校）」の認定	△「『授業づくりコーディネーター』の認定	△「U10学びの未来づくり	△「優良・優秀学校図書館の認定	△「学校図書館活用に関する研修の実施（新任校長研修）	△「学校図書館・公立図書館連携研修」	△「文部科学省研修受講履歴記録システムの活用	△「授業力を高めるための理論的・実践的な研修	△「校内研究モードルプラン」、eラーニングによる効果的な	△「校内研究モードルプラン」、eラーニングによる効果的な
教職員	教職員は、授業改善に資する学校図書館の環境整備を行つたか										b	b	b
	教職員は、授業改善に向けて前向きに協議や研修を行つたか	a	b		b						b		b
	教職員は、授業改善の具体的な方法を学ぶことができたか	b	b		b						b	b	b
	教職員は、授業改善の手段として学校図書館を活用したか									b	b	a	
	教職員は、授業改善に向けて情報交換を十分に行えたか					b	c					b	b
	教職員は、授業改善の効果を実感することができたか	a			a	b	c				b		b
	教職員は、進んで授業改善を行おうと意識することができたか	a	a		a	b	c				a	a	a

※a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である

Action2 の総括評価

*各委員による評価

評価の観点	学力向上推進会議における意見
ウ	<p>各評価から「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用は定着したといえる。経験の少ない職員も含め、授業づくりの基本となっている。</p> <p>令和7年度からの取組を推進するにあたり、このプログラムを活用することで、いかに子供たちの変容を見出すことができるかを検証項目として加えていけるとよい。また、今後は「個別最適」「協働的な学び」のねらいに沿った同実践モデルプログラムの在り方を支援する意味で、「授業づくりコーディネーター」とのタイアップに期待したい。</p> <p>「学力向上交流会」では他校の実践を共有し合い、意見交換の機会を持つことができ、大変有意義である。参加者が交流会で得た情報を自校に広める動きがあるとさらによい。</p>
エ	<p>評価観点のうち「教職員は、進んで授業改善を行おうと意識することができたか」という項目が a 評価で終えられたことに価値があると捉える。教員の意識変革、日常への授業改善意識の向上を行えたことが成果といえる。</p> <p>今後は、良い授業の手法や素材をどのように手に入れるよいのかなど、教員が日常的に活用できる仕組みを検討できるとよい。</p> <p>「全国学力・学習状況調査」の結果を受け、「学力向上交流会」を通して課題意識を新たにする流れは定着している。</p> <p>「授業づくりコーディネーター」については、事業内容の周知に努め、さらなる活用促進が図られるとよい。</p>
<p>【Action 2について】</p> <p>教師の指導改善に視点を置いた Action 2 は、その目的、方法が分かりやすく、良い取り組みだったといえる。教員の意識改革が進んでいることが見られ、本プランの実践による成果といえる。</p> <p>今後は、子供たちの成長した姿をどのように描いて各取組に臨むかが大切である。手法の共有にとどまらず、めざす子供の具体的な姿を考えながら進めていけるとよい。</p> <p>「研究指定校」や「授業づくりコーディネーター」の実践はとても素晴らしい。各地域で繰り返し紹介するなどして、各学校への周知をしっかりと行いたい。</p>	

【総合評価】ちばっ子「学力向上」総合プランの全体評価

(学力向上推進会議による総合プランの全体評価)

- 【評価の観点】
- I 各アクション、各事業の評価は適切か
 - II 前年度の評価等を活かした事業内容改善の成果は上がっているか
 - III ちばっ子「学力向上」総合プランにより、児童生徒の学ぶ意欲は向上しているか
 - IV ちばっ子「学力向上」総合プランにより、教員は授業改善を図っているか

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の観点	学力向上推進会議からの意見
I	一部の事業は、担当者が低めの自己評価をしていたが、委員より「児童生徒の学ぶ意欲を向上させているため、評価を引き上げた方が良いのでは」という意見があり、反映した。一方、実際の事業内容以上の過大評価をしている事業は見受けられなかった。そのため、適切に評価していると考えられる。
II	「千葉県学習サポーター」派遣事業等、成果が上がっている事業に関しては、以前から、予算の拡充やコマ数の増加、運用時期の見直しの意見が出ているが、あまり改善に至っていない。しかし、全体としては、前年度の評価や意見を活かして、改善された事業内容が見受けられ、事業内容改善の成果は上がっているといえる。
III	ちばっ子「学力向上」総合プランにより、児童生徒の学ぶ意欲は向上していると言える。例えば、STEAM教育の推進、外国語指導助手(ALT)等の配置、ICT(AI英会話学習支援システム)の活用、「SSH」の活用、「科学の甲子園」大会の開催等の事業において、児童生徒の学ぶ意欲が向上したと言える。
IV	ちばっ子「学力向上」総合プランにより、教員は授業改善を図っていると判断できる。例えば、「特別非常勤講師」については、特別非常勤講師の授業を参観することで、その学校の教員が指導のポイントや児童への支援の仕方等を学んでいた。また、「小学校専科非常勤講師」の専科教員の指導技術を見て、若手教員は学んでいる様子が伺えた。

【ちばっ子「学力向上」総合プランについて】

今後の課題として、「授業改善を行おうと感じた際に、良い授業の手法や素材をどのように手に入れるか、日々の教員の忙しい日常の中で活用される仕組みを検討できると良い。」という意見や、「事業の成果を、該当校のみに留めず、他校にどう広げ、充実させていくか検討する必要がある」という意見が委員よりあった。このような課題はあるが、今年度の「ちばっ子『学力向上』総合プラン」は、児童生徒の「学ぶ意欲の向上」を目的とした【Action1】と、教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目的とした【Action2】の2つのアクションが相互に機能し、全体として成果が上がっているといえる。

(参考) 評価の視点

Action 1 目指す姿

「自ら課題を持ち、多様な人々と協働し、粘り強くやり抜く子」

【評価項目】児童生徒の「学ぶ意欲の向上」

【評価の観点】ア 人的配置により学ぶ意欲の向上につながっているか

イ 教育環境の整備により学ぶ意欲の向上につながっているか

評価の視点

【児童生徒の姿としての視点】

- ・児童生徒は、自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか
- ・児童生徒は、多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしていたか
- ・児童生徒は、協力したり協働したりしながら学習する良さを実感できていたか
- ・児童生徒は、見通しを持って活動に取り組み、最後までやろうとする意欲を持てたか
- ・児童生徒は、主体的または計画的に学習に取り組めたか
- ・魅力的な学習活動であり、児童生徒が最後までやろうとする意欲を持てたか

【県教委の取組としての視点】

- ・児童生徒が自発的、計画的に学習に取り組むための支援ができたか
- ・児童生徒が学ぶことが楽しいと思える教育活動を支援できたか
- ・児童生徒が学ぼうと意欲的になるための教育活動を支援できたか
- ・児童生徒が将来の夢や希望が持てる教育活動であったか

Action 2 目指す姿

「子供と社会の変化を捉え 自律的に学ぶ姿勢をもち 授業を工夫する教員」

【評価項目】教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

【評価の観点】ウ 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を意識した取組につながっているか

エ 授業改善を意識した研究・研修・分析ができているか

評価の視点

【教職員の姿としての視点】

- ・教職員は、児童生徒の学ぶ意欲を引き出すために、教材を工夫したか
- ・教職員は、授業改善に資する学校図書館の環境整備を行ったか
- ・教職員は、授業改善に向けて前向きに協議や研修を行ったか
- ・教職員は、授業改善の具体的な方法を学ぶことができたか
- ・教職員は、授業改善の手段として学校図書館を活用したか
- ・教職員は、授業改善に向けて情報交換を十分に行えたか
- ・教職員は、授業改善に向けて「実践モデルプログラム」を意識することができたか
- ・教職員は、授業改善に向けて「実践モデルプログラム」を活用したか
- ・教職員は、授業改善の効果を実感することができたか
- ・教職員は、進んで授業改善を行おうと意識することができたか

① 学習指導要領では、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」を、全ての子供に育成することが求められています。また、第3期千葉県教育振興基本計画「次世代へ光り輝く『教育立県ちば』プラン」では「ちばの教育の力」で、次世代に向けて、力強く歩んでいく子供たちの育成を目指しています。

本プランでは、これらの実現のため「自ら課題を持ち、多様な人々と協働し、粘り強くやりぬく子」、「子供と社会の変化を捉え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、授業を工夫する教員」を目指す姿とし、子供たちの学ぶ意欲の向上を図る Action 1 と教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る Action 2 の 2 つを推進し、+ONE で check していくことで、ちばっ子の学力向上を図ります。

子供たちの学ぶ意欲の向上

学ぶことが楽しいおもしろいを100%

自ら課題を持ち、
多様な人々と協働し、粘り強くやりぬく子

●子供たちの主体的な学び促進事業

- ・県独自の学習教材「ちばっ子チャレンジ 100」(小学校)、「ちばのやる気学習ガイド」(中学校)、「家庭学習のすすめ」サイトの整備充実を図るとともに、これらの教材を活用した児童生徒の主体的な学びを支援する web サイトを構築し、児童生徒の学ぶ意欲を向上。

●千葉県学習センター派遣事業

- ・授業中や放課後等における児童生徒への学習支援、家庭学習の充実や習慣化に向けた支援等のため「学習センター」を派遣することにより、授業改善を促し、児童生徒の学ぶ意欲を向上。

●魅力ある専門分野の人材活用事業

- ・教科指導の専門性や優れた知識・技術及び外国語・プログラミングなどの新分野の知識・技術を有する人材を活用することにより、児童生徒の学ぶ意欲や学力を向上。
- ・外部人材による教科等横断的な STEAM 教育の特別授業を実施し、理数の魅力・楽しさを伝えることで、探究心・学習意欲の向上。

●グローバル化に対応した英語教育の充実事業

- ・ICT (AI 英会話学習支援システム) や「外国語指導助手 (ALT)」等を効果的に活用することで、児童生徒がコミュニケーションすることを楽しみ、自分の考え等を主体的に発信する力を付ける言語活動を充実。

●先進的教育活動による学ぶ意欲向上事業

- ・「SSH」の研究指定により先進的なカリキュラム開発を行うとともに、様々な場面でその普及を図ることにより、児童生徒の学ぶ意欲を向上。
- ・「科学の甲子園」「科学の甲子園ジュニア」の開催を通じて、科学技術に関する興味・関心を高め、科学技術分野で活躍する人材を育成。

●ICT 活用教育の充実事業

- ・授業における ICT 機器の効果的な活用等を、検証校において研究し広めることにより、生徒の主体的に学ぶ意欲を向上。
- ・学習支援コンテンツ等の効果的な活用等を、検証校において研究し広めることにより、個々の生徒の理解度に応じた知識・技能の定着や学ぶ意欲を促進。
- ・教科等の指導において、1 人 1 台端末環境で ICT を効果的に活用した授業モデルプランを作成し、児童生徒の学ぶ意欲を向上。

Action1

Action2

ダブル・アクション
+ One
Check

千葉県学力向上推進会議

学識経験者・学校関係者・保護者代表等からなる委員により、プランの進捗管理を行い、教育施策・事業の改善・充実を図る。

全国学力・学習状況調査の結果分析と活用

ICT 等を用いた児童生徒個々の学習状況の管理と活用

ちばっ子学びの未来デザインシート事業

教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

実践モデルプログラム活用率100%

子供と社会の変化を捉え、
自律的に学ぶ姿勢を持ち、授業を工夫する教員

●学力学習状況調査分析・活用事業

- ・「全国学力・学習状況調査」の結果分析を促進することにより PDCA 好循環を創出。
- ・「全国学力・学習状況調査活用の手引き」等の活用を促すことにより、授業改善を推進。

●ちばっ子の学び変革推進事業

- ・「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を軸とした「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進。
- ・「学力向上交流会」を通じて、教育施策の周知理解や授業改善の事例等の共有を図ることにより、授業力を向上。
- ・研究指定校による、課題解決に向けた取組の成果の普及を図ることにより、授業改善を推進。

●授業づくりコーディネーター活用事業

- ・市町村立小・中・義務教育・特別支援学校で「授業づくりコーディネーター」を認定し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業公開や授業づくりの相談、事例の提供等を通じ、域内の教員の授業力を向上。
- ・高校において、教員の指導技術等をまとめた資料や指導案等をデータベース化し提供。
- ・経験年数 10 年未満の教員が行った「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた事例等を広く紹介することで、教員の指導意欲の向上と授業改善を推進。

●学校図書館活用推進事業

- ・「優良・優秀学校図書館」の認定や学校図書館に関する研修会の開催などを通じて、授業における学校図書館の一層の活用を促進。

●研修体系に基づく研修の充実事業

- ・研修受講履歴記録システムの活用による能動的研修を推進。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて必要とされる授業力を高めるための理論的・実践的な研修を推進。
- ・e ラーニングや校内研究モデルプランの活用を進めることにより、教員の授業改善を促進。

Plan & Do

Plan & Do

ちばっ子「学力向上」総合プラン(学びの未来づくり ダブル・アクション+ONE)の各取組の説明

子供たちの学ぶ意欲の向上 学ぶことが楽しいおもしろいを100%

自ら課題を持ち、多様な人々と協働し、粘り強くやりぬく子

Action1

●子供たちの主体的な学び促進事業

- ◇「ちばっ子チャレンジ100」(小学校)・「ちばのやる気学習ガイド」(中学校)・「家庭学習のすすめ」サイトの活用促進
 - ・県独自に問題を作成し、web配信の充実やMEXCBTでの活用を図り、児童生徒が自ら活用できる環境を整備し、学んだことの着実な習得と学ぶ意欲の向上を図る。
 - ・家庭学習教材等の内容を充実させ、活用促進を図ることで、家庭学習を支援する。

●千葉県学習センター派遣事業

- ◇「千葉県学習センター」派遣事業の充実
 - ・市町村立小・中・義務教育学校に、授業中の学習支援、学校教育活動の一環として行われる放課後等における児童生徒への学習支援、家庭学習の充実に向けた支援等を行う退職教員等の多様な地域人材を「学習センター」として派遣し、児童生徒の学ぶ意欲や学力の向上を図る。

●魅力ある専門分野の人材活用事業

- ◇「特別非常勤講師」の配置
 - ・各分野において優れた知識・技能を持つ人材を特別非常勤講師として配置し、各教科、特別の教科である道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び小学校のクラブ活動で、興味・関心の多様化に応じた授業を行うことにより、児童生徒の学習意欲の向上を図る。
 - ◇「小学校専科非常勤講師等」の配置
 - ・算数、理科、体育及び図画工作の専科指導を行うための「小学校専科非常勤講師等」を派遣し、指導者の専門性を生かした授業を行うことにより、児童の学ぶ意欲や学力の向上を図る。

◇STEAM教育の推進

- ・外部人材による教科等横断的なSTEAM教育の特別授業を実施し、理数の魅力・楽しさを伝えることで、探究心を引き出すとともに、学習の意義をみいだし、学習意欲の向上を図ります。

●グローバル化に対応した英語教育の充実事業

- ◇ICT(AI英会話学習支援システム)の活用
 - ・AIとの英会話やCEFRレベルの英語力判定等を授業と連動させることにより、生徒の話す力や学習意欲を高めるとともに、教員の授業改善を促し、言語活動の充実を図る。
 - ◇外国語指導助手(ALT)等の配置
 - ・県立学校への外国語指導助手(ALT)等の配置を充実させることで、生徒が英語に触れる機会を増やし、外国語教育及び国際理解教育の一層の推進を図る。

●先進的教育活動による学ぶ意欲向上事業

- ◇「SSH」の活用
 - ・高校において、学校や地域の実態に即した、先進的な教育活動を行う研究校を指定し、生徒の科学や社会課題に対する興味・関心と知的探究心を高める。
 - ◇「科学の甲子園」「科学の甲子園ジュニア」大会の開催
 - ・「科学の甲子園」「科学の甲子園ジュニア」大会を開催し、理数に関する競技に協働して取り組む機会を提供することで、理数や科学技術に対する興味・関心や知的探究心を高める。

●ICT活用教育の充実事業

- ◇ICTを活用した学習指導の充実
 - ・高校において、各教科等の学習の中でICT機器を連動し、一斉に意見を発信したり、リアルタイムに多様な意見を比較・議論したりしながら問題解決する活動を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現及び学習意欲の向上を図る。
 - ・教員同士が指導案を共有し授業改善につなげができるポータルサイトを構築することにより、ICTを活用した学習指導の充実を図る。

◇個に応じた学びの推進

- ・高校において、学習支援コンテンツの持つ、一人一人のつまずき箇所を瞬時に分析して問題を提供する機能等を活用することで、生徒の理解度に応じた知識・技能の効果的な定着を図る。
- ・教科等の指導において、1人1台端末環境でICTを効果的に活用した授業モデルプランを作成し、児童生徒の学ぶ意欲の向上を図るとともに、webによる配信等によりモデルプランの普及を図る。

教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践モデルプログラム活用率100%

子供と社会の変化を捉え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、授業を工夫する教員

Action2

●学力学習状況調査分析・活用事業

- ◇「全国学力・学習状況調査」の活用促進
 - ・「全国学力・学習状況調査」の活用を促進するため、県独自の分析シートを作成・配付することで、各学校での結果分析を支援し、指導改善サイクルに基づいた授業改善を促進する。また、「全国学力・学習状況調査活用の手引き」を作成し、活用を促すことで、授業改善を推進する。
 - ・千葉県学力向上通信「COMPASS」を定期発行することで、各学校の学力向上への取組を促進する。

●ちばっ子の学び変革推進事業

- ◇「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用促進
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために、「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用を推進するとともに、それを活用した授業実践資料等について広く周知することで、教員の授業力向上を図る。

◇「学力向上交流会」の開催

- ・「授業づくりコーディネーター」等の優れた授業実践や研究指定校における研究成果などを周知するとともに、授業技術や教材の紹介や学力向上に関する協議を通して、「ちばっ子『学力向上』総合プラン」の普及を図る。
- ◇「ちばっ子の学び変革」研究指定(検証協力校)
 - ・学習指導要領の趣旨を踏まえ、県内の児童生徒に求められる資質・能力の育成のために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。また、検証校による全国学力・学習状況調査のデータ等を活用した学力向上に向けた取組や成果の普及を図ることで、各学校における継続的な検証改善サイクルを確立するための取組を推進する。

●授業づくりコーディネーター活用事業

◇「授業づくりコーディネーター」の認定

- ・卓越した技能と専門性を生かし、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を実践している教員を「授業づくりコーディネーター」として認定する。また、「授業づくりコーディネーター」が自身の授業実践について、授業公開や研修会等を通して、地域の教員に広く周知するとともに、授業づくりの相談、実践事例の提供等の機会を充実させることで、教員の授業力向上を図る。

◇U10学びの未来づくり

- ・教職経験10年未満の教員の優れた実践を、教育事務所の配付物等を通して広く紹介することで、教員の指導意欲の向上を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。

●学校図書館活用推進事業

◇「優良・優秀学校図書館」の認定

- ・「優良・優秀学校図書館」の認定を通して、学校図書館の整備を促進するとともに授業における活用を推進する。

◇学校図書館活用に関する研修の実施

- ・新任校長研修において、学校図書館長研修を実施し、学校図書館の活用を推進する。
- ・公立図書館と学校図書館が連携し、読書及び図書館活用を促す研修会を開催し、学校図書館を活用した授業を推進する。
- ・「学校図書館長による学校図書館活性化ガイド」及び「司書教諭のための学校図書館活用ガイド」の活用を図る。
- ・オンライン研修を実施し、司書教諭や学校図書館担当による学校図書館の活用を推進する。

●研修体系に基づく研修の充実事業

◇研修受講履歴記録システムの活用

- ・教員一人一人が伸ばしたい資質能力を意識して研修を受講し、研修受講履歴記録システムを活用することで意欲を持って学び続ける教員の育成を図る。

◇「校内研究モデルプラン」、eラーニングによる効果的な校内研修等の推進

- ・校内研究をより効果的に実施するため、具体的な校内研究の進め方等を示した「校内研究モデルプラン」を作成し、その普及を図ることで、各学校での授業改善を促進する。
- ・研修受講者の状況に合わせて、主体的に研修が進められるeラーニングで学んだことを日頃の実践に生かすことで、教員一人一人の授業改善を推進する。

●千葉県学力向上推進会議

- 各事業について、様々な立場の外部構成員による協議及び評価を行することで、学力向上に向けた取組の更なる充実・改善を図る。

●ICT等を用いた児童生徒個々の学習状況の管理と活用

- ICT等を活用し、データを基に児童生徒個々の実態や課題を客観的に捉え、全職員で共有・評価し、学習状況を管理することで、学習意欲の向上や基礎基本の定着など個別最適化を図る。

●全国学力・学習状況調査の結果分析と活用

- 「全国学力・学習状況調査活用結果の分析・活用を促すことでの児童生徒の学ぶ意欲の向上と教員の授業改善を推進する。

●ちばっ子学びの未来デザインシート事業

- 児童生徒と教員・学校が各々の学びを振り返る「デザインシート」を活用して、児童生徒の学ぶ意欲の向上と教員の授業改善を推進する。